

平成23年5月26日(木)
国土交通省関東地方整備局
千葉港湾事務所

記者発表資料

平成23年度 千葉港湾事務所の事業概要について

千葉港湾事務所の平成23年度における事業概要は、以下のとおりです。

千葉港湾事務所では、国際拠点港湾の千葉港(港湾取扱貨物量:全国第2位)と重要港湾の木更津港の公共施設の整備を主に進めています。

千葉港では首都圏における産業の国際競争力強化や防災対策として、葛南中央地区(船橋市)の岸壁(-12m)及び泊地の整備を行います。また、木更津港では南部地区(木更津市)の木更津航路泊地(-12m)の拡幅を実施します。

さらに、海上交通が輻輳している東京湾の船舶の航行安全・湾内の環境改善のため、清掃兼油回収船「べいくりん」による浮遊ゴミや油の除去を行うとともに、覆砂海域のモニタリング(東京湾海域環境創造・自然再生事業)及び、モニタリングポストによる水質の連続観測等(東京湾海洋環境整備事業)に引き続き取り組んでいきます。

※ 4月1日の閣議において財務大臣から公共事業予算及び施設費について5%程度の執行留保の方針が示されているため、全体として原則5%程度の予算執行が留保されることとなります。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、横浜海事記者クラブ
千葉県政記者クラブ

問い合わせ先

所属 関東地方整備局 千葉港湾事務所

氏名 工務課長 石岡 勉

電話 043-243-9172

FAX 043-243-1939

千葉港葛南中央地区国際物流ターミナル整備事業

H23年度事業費： 3.4億円

【千葉県船橋市】

事業の概要

千葉港葛南中央地区（船橋市）は、東京湾の北部に位置し、地域の主要産業である鉄鋼類の貨物を多く扱う地区で国際競争力の観点から船舶の大型化に対応するとともに、大規模地震時の緊急物資輸送機能確保のため、耐震強化構造の岸壁（水深：-10m→-12m、船舶：1.5万トン級→3万トン級）へ改良を行います。

平成23年度予定

岸壁（-12m）の本体上部工の整備（完了）及び泊地（-12m）の浚渫工（継続）を実施します。

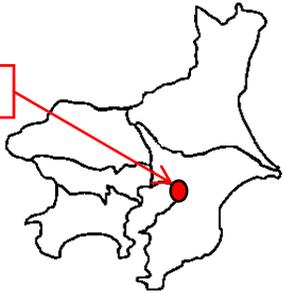
事業の効果

国際物流ターミナルを整備することにより、3万トン級の大型船舶が喫水調整しなくとも出入港が可能となり、港湾貨物輸送の効率化とコスト低減が図られ地域産業基盤の強化が図られます。

また、岸壁を耐震強化することで、大規模地震時において、海上からの緊急支援物資の早期に大量輸送が可能となり被災地域の復旧・復興に貢献できます。

【位置図】

千葉港



木更津港木更津南部地区国際物流ターミナル整備事業

H23年度事業費： 2.6億円
【千葉県木更津市】

事業の概要

地域企業の国際競争力の強化を図るため、一般貨物船（船長180m級）よりも船長の長い自動車専用船等（船長200m級）が安全に入出港できるよう、当該泊地幅を380mから410mに拡幅します。

平成23年度予定

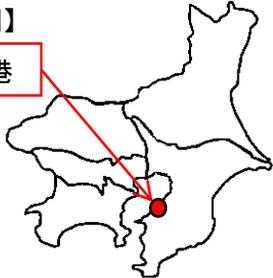
航路泊地（-12m）の浚渫工（拡幅）を実施します。

事業の効果

泊地を拡幅することにより、従来の一般貨物船より船長の長い自動車専用船等の離接岸の際に船舶の方向転換が容易となり、物流コストの縮減と安全性が図られます。

【位置図】

木更津港



東京湾 海域環境創造・自然再生事業

H23年度事業費： 0.9億円

【千葉県浦安市】

事業の概要

有機汚泥等の堆積する海底面を良質な土砂で覆うことで、海底面からの有機物の溶出等を抑制し海域環境の改善が期待出来ます。

東京湾再生のパイロット事業として平成17年度から18年度に東京湾口航路浚渫で発生した良質な土砂を有効活用し、千葉県浦安市の千鳥沖で覆砂を行っています。このパイロット事業の結果把握のため継続して環境モニタリングを実施しています。

平成23年度予定

平成17年度および18年度に実施した覆砂海域で水質、底質、底生生物等の環境モニタリング調査を引き続き実施し、シーブルー事業効果の評価を行います。

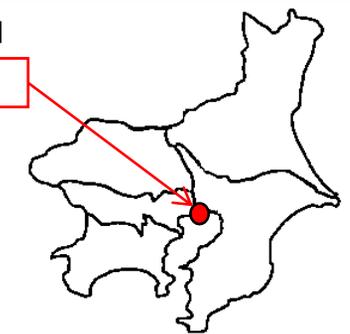
事業の効果

平成22年度までに実施したモニタリング調査結果から、青潮の発生原因とされる海底に堆積していた有機物の溶出を封じ込める効果が覆砂後4年経過してもなお維持されていることが確認されています。また、覆砂海域ではアサリ等の貝類を初めとする底生生物の種類数・生息数が増加し、定着できる環境であることが確認されています。



【位置図】

浦安市



覆砂により深堀の一部を解消

